

キ障協

No. 45

2024年4月30日

全国キリスト教障害者団体協議会

発行人：廣田守男

住所：〒672-8045

姫路市飾磨区中野田4-116-38

電話：079-235-8819

印刷：リブウェル聖恵

(価格 一部50円)

郵便振替口座 00110-7-688014

加入者名：全国キリスト教障害者団体協議会

修養会・総会講演

「息子の『障がい』をも賜物として」

マタイによる福音書二五章一四～二七節

日本キリスト教団

土佐教会牧師

成田信義

はじめに

二六歳の息子と斗は、「自閉症スペクトラム」という発達障がい、比較的重度な障がい者です。高知市立養護学校（現在、市立特別支援学校）の小・中・高を卒業して、現在は地域の作業所に「生活介護」という立場で通っています。牛乳パックのリサイ

クルや、空き時間にはスウェーデン刺繍という手芸をしています。現在、三人暮らし。親として、彼と共に生きてきて、彼をおしていろんな所に連れて行ってもらったり、出合いを与えられています。今日はそれらのことをとおして学んだり感じていることを、聖書に聴きながらお話しさせていただきます。二〇一八年、「四国障害者キリスト伝道会高知地区会」にてお話しさせていたいただいた内容がベースになっています。すことを、ご了承ください。

I. 和斗の紹介

まず、彼の障がいについて、最低限のことだけ触れたいと思います。「発達障害」という言葉は、ご存じかと思えます。生まれつきの脳神経の発達のアンバランス・でこぼこ、本人をとりまく環境や周囲の人達との関わりの不一致から、社会生活に困難が生じる障がいです。見た目ではわかりにくいことが多く、本人の努力不足だとか、親のしつけの問題とか、誤った解釈や批判を受けることも少なくありません。人間誰しも、得意なことや不得意なことがあります。とりわけ発達障がいのある人は、得意なこと不得意なことの差が極端

に表れる傾向があります。また、他の多くの人と比べて違った物事の感じ方や考え方をしている傾向が強いです。そのため、勉強するにしても、仕事するにしても、その理解や進め方、物事への集中力や持続力に偏りがみられます。対人関係でも個別の配慮や工夫が必要なことが多く、生活に支障をきたしやすいのです。

発達障がいは、一説によると次の三つに分類されます。「自閉症スペクトラム」、「学習障がい」、「注意欠如・多動性障がい」です。この三つの分類から、さらに主だった特性によって細かく区分されています。多くの場合、発達障がいはそれぞれが複合的だったり、特性や症状も異なるため、特定の障がい名に当てはめるのが難しいことも少なくありません。

彼の場合の主だった具体的症状は……。
・視線を合わせることに、自分の気持ちを伝えること、友達関係を上手く築くことが困難。

・言葉の発達に遅れや偏りが見られることもある。言葉の遅れがある場合は、質問に対してオウム返しをしたり、単語だけで話をしようとする。会話も一方的になりがち。遊びのルールやその場の空気を理解できな

かったり、集団での共同作業に困難を示したりする。

・音 におい、接触刺激、痛みなど特定の感覚に過敏性を示したり、逆に鈍かったりもする。また、日常と異なる場面への対応が難しいことがある。

・生活習慣や食事など、特定のものにこだわりを持つたり、ジャンピングしたり、手のひらをひらひらさせたりする特有の行動がよく見られる。

彼の場合、こうした自閉症スペクトラムの特性に、知的障がいが伴っていると診断されています。

ちなみに今回、ここでお話しをするにあたり、一応、和斗に了解を求めました。「和斗のことでイエスさまのお話しをしたいんやけど、和斗のことを話していい？」。すると和斗は、ニコニコしながら「話していい！」と応えていました。Issoの意味での「話していい」ではなく、オーム返しによるものです。

II. 彼と共に歩んできて想うこと

第二子の子育てだった連れ合いと私にとつて、何か育てにくさを感じ始めたのは、二〜三歳頃からでした。三歳児健診で、「自

閉的傾向があります」と言われ、医療機関に通院。地域の保育園に入園する際、「障がい児枠」を希望するにあたって「療育手帳」の発行を受けました。

誤解を恐れず正直に申し上げますが、シヨックでした。連れ合いとは学生時代からの知り合いで、二人して、障がいのある子ども達の遊び場や教会学校でボランティアをしていました。車椅子の子ども、コミュニケーションが苦手な子ども、ほぼ寝たきりの子ども……、みんなで一緒に遊ぶことをとおして、よい出会いを与えられていました。それぞれ生きにくさを抱えていても、一人ひとりにキラリと光るものがあつて、神さまに愛されているかけがえのない存在だと心から思っていました。障がいゆえの偏見や差別は絶対に許せないと、正義感に燃えていました。

ところが、いざ我が子がそうなった時にシヨックを受けたこと、それがシヨックでした。偽善者だと自分を責めました。ボランティアで出会った友達や親御さん方のことを思い出して、申し訳なく思いました。一方、障がいがあるのだと正式に診断され、そうだったのかと、これまでの育てにくさが腑に落ちた感じがしたのも正直なところ

です。こうして、彼にある「障がい」と彼自身と向き合っていくことになりました。

彼が小二の時のことです。北海道在住当時、礼拝準備に忙しい土曜日の午後、ちよつと目を離したすきに、和斗が家からいなくなつたことがあります。これまでも、何度かそういうことはありましたが、その日は捜せど捜せど見つかりません。近所の方や教会の人達も捜してくれましたが見つからず、警察に捜索願ひを出しました。秋とはいえ日が暮れるとかなり冷え込みます。室内着のままです。一人で外出したことはありませんし、お金も持たせていません。話しかけられても、まともな受け答えは出来ません。パニックになると、この世の終わりのような声で泣き出してしまいません。お巡りさん方が、あの手この手で捜索してくださいました。夕方になると、ラジオ番組で情報提供が呼びかけられました。さらに、警察犬の登場。彼の衣類を嗅いで、なぜか石狩川の川沿いを捜索し始めました。お巡りさん曰く、「こういうケースでは川沿いで発見されることがあるからねー……」。その時には、さすがに最悪の事態が脳裏を横切りました。

夜九時過ぎでした。札幌中央警察署に和斗らしき迷子が保護されているとの連絡が入ります。かけつけると、何食わぬ表情の彼がいました。警察から事情を説明されました。隣の札幌全日空ホテルの二階喫茶店前のソファーにいたところを、心配になったその店員さんが通報、保護してくださったとのこと。幸い事無きを得ました。ただどうやって車でも一時間程度かかる札幌全日空ホテルに行ったのか、未だにわかりません。我が家では誰もいったことがありません。一人でJRかバスかに乗ったのか。はたまた誰かについていったか、連れられていったのか……。今なお我が家の謎のままです。

ただ、大変迷惑をおかけしたことだったので、その時に心底学んだことがあります。それまでも、障がいに対する周りの無理解や心ない言葉、蔑む振る舞いに、傷つくことが少なくありませんでした。そのような相手に対して攻撃的になったり、一線を引いて避けたりもしました。その手のことで親として傷つくことにビックリしてきただけでもありました。しかし、和斗は自分達家族だけや身近にいる理解者だけで育てられているのではなく、社会からも温かく

見守られていたのです。勿論、社会は障がいに対して十分ではありません。けれども、社会は傷付けませんが、家族や理解者の限界を超えて、大きな見守りでもあったのです。そのことを身をもって体験しました。

とはいえ、二〇一六年の相模原における障害者施設での痛ましい事件は今でも忘れることができません。障がいがあるというだけで十九名が殺害された痛ましい事件でした。死刑囚の植松聖さんは、一貫して主張しています。「障がい者は不幸しか産み出さない」、「心失者（意思疎通が出来ず、生産のない人は心を失っていると決め付ける、造語）と共に生きるのか？ この社会は本当にそうなのか？ この裁判で、その答えが出されるだろう」といった主旨のことを、真顔で言い切っています。

この事件が今なお世に問うているように、命の重みを見失いかねない状況があるのも確かです。障がいのあるなしを問わず、切実な問題です。大切にされるべきいのちと、大切にされなくても仕方のないいのちが、公然と区別された結果だと思われる現実も後を絶ちません。これは、理想と現実との間にある矛盾として仕方のないことな

のでしょうか。

Ⅲ. 主イエスにとって、「いのち」とは？「障がい」とは？

ここで、聖書に聴きたいと思えます。聖書は、一人ひとりのいのちをどのように理解しているのでしょうか。そもそも私達人ひとりは神さまからどのようなまなざしが注がれている存在なのでしょうか。今日は、主イエスが語った一つの譬え話に聴いてみたいと思えます。

その譬えは、とてもシンプルです。

あるところに、お金持ちの主人がいて、旅に出かけることになりました。主人は、僕たちを呼んで、それぞれにお金を預けることにします。「タラントン」とは、諸説ありますが、当時の社会での国家規模で金の単位。私達の感覚では兆とか京とか、見たことも手にしたこともない、生涯どれだけ贅沢しても使い切れないような、何度人生を繰り返しても余りある、とんでもなく高価な単位だと思つてよいそうです。

さて、主人はある僕には五タラントン。次の僕には二タラントン。もう一人の僕には一タラントンを渡します。それぞれ別々

にタラントンを預けて、「後は頼んだよ」と命じて旅立ちます。旅から帰ってきた主人は、僕たちを集めてそれぞれに託したタラントンを精算します。

五タラントン預かった僕、二タラントン預かった僕は、タラントンをしっかりと使った倍にしました。主人は大変喜びます。けれども、一タラントン預かった僕はというと、厳しい主人のことが恐くてタラントンを全く使うことなく土の中に隠していたので、そのまま返します。すると、主人はかんに怒って言いました。「せつかく預けたのに、どうして何にも使わなかったのだ。私が厳しくて恐くても、銀行に預けるとか、何かのために少しは使おうとはしなかったのか……。」この僕は主人のもとから追い出されてしまいました……。という譬えです。

主イエスが語っておられることは、人間は神さまからそれぞれ特別なタラントンを託された存在なのだということです。一タラントンとか五タラントンとか金額の大小は、この際無視してよいと思います。この人には一タラントン、あの人には五タラントンと、それぞれ異なる、その人のためだ

けの特別なタラントンの預けられているという事です。つまり、英語の「anti」。この「タラントン」というギリシア語が語源とされているとおり、一人ひとりにタラントンとして託された才能、個性、秘められた可能性は、その人が自由に存分に用いるために託された、他の何物にも代えられない尊いものであること。しかも、託されたタラントンは用いさえすれば倍返しとなつて、さらに豊かな実を結ぶのだと言います。

私達一人ひとり、始めからそのような創られているのだと、主イエスは語っておられます。神さまの前に、私は私というタラントンなのです。これは、聖書が物語る一つの人間理解、たとも言えるのではないでしょう。

キリスト教子ども施設の研修会、その講演で、小説『フランケンシュタイン』に触れながら、ついつい人と比較してしまう課題について語られたことがありました。私というタラントンについてさらに深く考えさせられました。

『フランケンシュタイン』の原作は、約二百年前、イギリスの作家メアリー・シェ

リーの小説です。科学者フランケンシュタインが、科学の力で優れた理想の人間を造ろうとするお話です。最も優秀な頭脳、最も高度な肉体、最も美しい容姿……。理想的なパーツを組み合わせて人間を造った、その結果は……。スーパーマンのような人間どころか、誰もが恐れて近寄り難い、想像を絶する怪物になってしまいます。フランケンシュタインは、自分が造つて命を与えた怪物が恐ろしくなり、置き去りにしてその場を逃げ出します。一人ぼっちになつた怪物は、フランケンシュタインのことを憎み、追い詰めていきます。

フランケンシュタインが造つた怪物は、凶暴な殺人鬼として知られている感がありますが、原作では怪物の内面が繊細に描かれています。そして、「人間とはどんな存在なのか」という問いが深く掘り下げられていて、とても考えさせられる小説です。私達の誤つた憧れに、社会が求める人間の在り様に、今も鋭い問いを投げかけるものです。

人と比べてうらやましく思ってしまうことがあります。しかし、だからといって、その劣っている部分は取り替えられなければならない

らないのでしょうか。障がいのある人のタラントンは、障がいのない人のタラントんに比べて本当に劣っているのでしょうか。フランケンシュタインのように、理想的なパーツを寄せ集め、組み立てれば、私達は素敵な人間になるのでしょうか。完璧な人が集まり、欠けや弱さ、悩みをもつ人がいなくなれば、みんなが幸せになるのでしょうか。誰もが人間が理想とする人間となれば、この世界は平和になるのでしょうか。

主イエスはそのようには考えていません。神さまのまなざしからは外的なことです。私達には何物にも代えられない特別なタラントんが託され、そのタラントんを存分に用いることが願われているのです。そのタラントんは、理想的パーツだけで出来ているのではないのです。一見見劣りして見える欠けや弱さもまた、タラントんの一部なのです。相手から寛容や謙遜、いのちそのものを引き出す、タラントんの尊い一部なのです。障がいもその一部であるだけなのではないでしょうか。

私達は、私というタラントんで生きることを喜ばれ、私というタラントんが十分に用いられるために愛されているのです。そして、周りの一人ひとりも、その人のため

だけの特別なタラントんを託された存在なのです。いのちに形があるのだとすれば、それがタラントんなのかもしれません。息子と共に歩んで来て、私にも託されているタラントんについて、このように受け止めさせられています。

この社会の中で、私達の間で時に怪しく危うくなる、このタラントんの確かさ、いのちの確かさ、神さまのまなざしの確かさについて、主イエスが語っている箇所があります。「律法と神の国」について、神さまの戒めである律法が、いかに大切かつ正確でなければいけないかを訴えている光景で、主イエスは「律法の文字の一面がなくなる」ことがあつてはならないと、その厳格さを強調しています。

メールアドレスの文字には、アンダーバー「_」とかドット「.」といった紛らわしい独特の記号があります。その一文字でも間違えると、メールは届きません。ヘブライ語(旧約)聖書のヘブライ語も、私達からすると似通っているようにしか見えない、線や点の組み合わせで表記されます。一画違っただけで、意味が通じなかつたり別の意味になつたりします。

主イエスが「律法の文字の一面がなくなる」ことがあつてはならないと強調している、律法の完成、律法全体に基礎付けられていることは何なののでしょうか。それは私達のいのちそのものです。いのちは望まれて創られ、いつくしまれるべきものとして、揺るがしてはならないのです。それゆえに、いのちを区別したり、とりこぼす、あらゆる悪しき力から解放たれて生きて欲しいと熱望されています。文字の一面すらなくなつてはならないものとして正確でなければならぬのは、いのちへの、この神さまの側の厳格さなのではないでしょうか。いつくしまれるべき、私達のいのちのかけがえのなさです。文字の一面すらかけるべきではないものとして大切にされているのは他でもない、息子のいのちであり、わたしのいのちであり、私達一人ひとりのいのちなのです。

いのちのかけがえのなさを危うくする現実があります。けれども、その危うさから私達を解放すべく、主イエスは今も真顔で「律法の文字の一面がなくなる」ことがあつてはならないと言いつつ切つているのではないのでしょうか。タラントんの譬えをとおして、

私達の側の不確かさや愚かさや淀まない、
真実なる神さまのまなざしが、一人ひとり
のいのちに注がれているのではないでしょ
うか。

IV. 息子の『障がい』をも賜物として

彼の小学部卒業式に出席した時のこと
です。市立養護学校に転校して二年、晴れて
卒業の日を迎えました。

どこの卒業式もそうでしょうが、卒業生
は実に凛々しく輝いて見えました。ここに
通り卒業することになった経緯や障がいは
様々です。出会って共に学んできた仲間の
中にいる彼は、家で接する姿とはまた別人
に見えて不思議でした。卒業証書授与、校
長より一人ひとりに手渡されます。一人言
を言いながら、ぴよんぴよん飛び跳ねやし
ないかとヒヤヒヤでしたが心配無用、驚き
ました。けれども、もつと驚かされたのは
校長の言葉でした。一人ひとりの卒業生の
名前を呼び、誰だつて必ず持つている、そ
の人の良いところを一言云い添えて、卒業
証書を手渡ししてくださるのです。「成田
和斗くん、あなたのおだやかなまなざしは、
みんなの心をなごませてくれました。おめ
とうございませう」

そのように、彼のことを見ていてくだ
さつていたのかと思うと、自分が褒められ
る以上に嬉しくて、思わずビデオカメラを
持つ手が震え、目の前がぼやけてきてしま
いました。ちよつと持ち上げすぎとちが
いますかと、人は言うかもしれませぬ。そん
なものが厳しい社会で何の役にたつのか
と、綺麗事として聞き流す人もいるでしょ
う。けれども私自身、全くもつて、そのと
おりでした！ と共感させられました。そ
ういえば、私も密かに感じていることでし
た。それを、第三者の方に宣言していただ
いた時、私の日常に埋もれていた、彼にも
与えられていたはずの存在価値、彼のタラ
ントンそのものを、あの一言でお祝いして
いただいた気持ちになりました。他の卒業
生一人ひとりもそうでした。

いのちそのものが放つ光と、その大いなる
肯定感に、卒業式全体が包まれていまし
た。埋もれていたものがやさしく掘り起こ
され、弱さも良いところもひっくりかえり、
一人ひとりの人間として、一人ひとりのタ
ラントンを、みんなで誉め讃え合う雰囲気
に溢れていました。そんな人間祝福式でし
た。

今日の講演題は、三浦綾子の著書「この
病をも賜物として」からいただきました。
「病気のデパート」と自称される三浦綾子
の日記がまとめられた著書ですが、病のこ
とを、これが神様からのプレゼントかもし
れない……と、記されています。

息子には確かに障がいがありますが、障
がいによる生きにくさが彼のすべてではあ
りませぬ。息子の障がいをも賜物とされて
いるのだと、今も彼からそのことを学んで
います。それと同時に、私というタラント
ン、私が出会う一人ひとりのタラントンの
受け止め方も、大切だよ、生かされている
よ、必要とされているよ……と、彼に促さ
れ続けています。

息子のことを分かち合わせていただく機
会をくださり、心から感謝します。彼には
大好物のお寿司をご馳走することにしてい
ます。ご静聴、ありがとうございます。

(日本基督教団 土佐教会牧師)



澁澤久兄告別式 弔辞

二〇一三年二月一日
日本基督教団本庄教会にて

キ障協前副会長

櫻 井 義 也

この度、敬愛する澁澤久様の訃報に接し、心から哀悼の思いを表したく存じます。

澁澤さんと深い交流をお持ちの方々も多く居られるにも関わらず、私如きものがお悔やみの言葉を述べることをお許しくたさい。

私と澁澤さんとの出会いはキ障協（全国キリスト教障害者団体協議会）での活動を通してでありました。私は埼玉地区のアーモンドの会（障害を負う人々と共に生きる教会を目指す懇談会）から、二〇〇一年の岩手でのキ障協総会に参加出席した時以来です。その頃は車椅子での多くの参加者がおられ、記念写真撮影の時にはずらっと車椅子が並び壮観でした。その車椅子の最前列に並んでおられた一人が澁澤さんでした。車椅子の後ろにはいつも最愛のお連れ合い和子さんがご一緒でした。二〇〇五年の「喜びのいのち」韓国語出版記念会には

ご一緒に韓国に行かれました。

当時、私はまだ個人的にはお交わりの機会を得てはいなかったのですが、二〇〇四年、当時の会長兼清章先生が天に召され、翌年の広島での総会で澁澤さんが会長の責を引き受けられ、その際、私が副会長に選任されて、以来二〇一八年に澁澤さんが退任されるまで共に役員会の責任を担うようになり、個人的にも厚いお交わりを頂きました。

この間、澁澤さんはキ障協の企画、運営に心を砕き、加盟各団体との連絡、協議、主題の設定などに積極的に関わられました。私は側面的に主に事務の面をお手伝いさせていただきましたが、二〇〇八年に和子さんが先に天国に旅立たれてからは、単独での総会・修養会への出席が適わなくなられ、会長にも拘わらず総会・研修会に出席して会を主宰することが出来なくなり、止むを得ず私が会長代行を務めることが多くなってきました。会長が出席できない総会ではなんと格好がつきませぬので、二〇〇九年の神戸での総会には、会計役員滝川英子さんと一緒に、私の車で神戸までドライブ往復しました。介助者なしでしたので、トイレの出入りには滝川さんが介

助し、宿泊会場では私と同室になり、お風呂にも一緒に入りました。お互い素っ裸で押したり引つ張ったり、頭や体を洗ったり、文字通り裸のお付き合いをいたしました。その時、何よりも心に残ったことは、本庄から神戸までの道中、中央高速道の談合坂サービスエリアで、ちょうど日曜日の朝であつたこともあり、屋外休憩所の一角に席をとって、私の司会で三人だけの小さな礼拝を守りました。心に残る清らかな朝の礼拝でした。

その後、キ障協の運営のためには年に二回の役員会で企画、連絡などの計画を立てねばなりません。澁澤さんが会場においてはならないので、総会後の役員会は当時副会長だった廣田守男牧師と滝川さんと私の三人だけで事務を処理しましたが、会長出席の役員会が必至でしたので、毎年三月には神保原の澁澤さんのご自宅で役員会を開催しました。滝川さんと私は埼玉が地元ですが、廣田先生は遠く姫路から新幹線です。本庄早稲田までお越し頂きました。お昼ごろに澁澤宅に到着。滝川さんがご用意くださったお弁当で昼食をいただき、時間をかけて協議をいたしました。ご家族はお留守でしたが、お写真の和子さんに見守られな

がら、勝手にお台所を使わせていただきました。どこかの会場で、時間を気にしながらの事務的な会議ではなく、澁澤さんのそれこそホームグラウンドでの会議でしたから、充分な会議が出来たと思います。この澁澤宅での役員会は、会長を退かれたあと、一回は「キ障協」誌の編集会議も兼ねて、廣田先生と共に副会長の難波幸矢さんにも岡山からお出まじたいでフルメンバーで役員会をすることができました。楽しい会でした。

澁澤さんは会長を退いた後も、キ障協顧問として、特に会報「キ障協」の編集発行と「キ障協歴史年表」の作成に携わっていただきました。原稿集めが大変でしたが、時には私とメールでやり取りしながら苦勞して発行にたどり着いたものです。

昨春秋、体が不自由になられたあと、キ障協No.四四号の編集に携わって頂いておりましたが、本年一月末に編集作業がどうしてもご無理、ということで私に編集作業の継続のご依頼があり、私が後を引き受けました。そして去る二月八日朝、廣田先生から澁澤さんご逝去のお知らせに愕然といたしました。キ障協の編集は澁澤さんから遺された遺産と考えて編集の仕上げに携

わりたいと思っております。

澁澤さんはキ障協の活動を通して加盟各団体の仲間の方々との深い、信仰の交わりを大切になさいました。その活動に対する情熱はその篤い信仰に基づくものです。共に働きながら、澁澤さんを根底から突き動かしていたのは、キリストへの深い信頼と信仰であり、生涯を重い障害を負いつつめげることなく負い続けられたように思います。背後には愛する和子さんのお支えがありましたし、苦難を負うことでキリストの十字架のご苦難に与り、キリストと一体化する信仰がありました。その生活の一端、お庭の花やお家の周辺の自然、可愛いお孫さんの活躍、にまで優しい眼差しを注ぎ、Facebookにしばしばお写真を添えた喜びが投稿されていました。本庄教会の礼拝に与り、今は地上の体の痛み、労苦から解放されて天に召され、和子さんと共に主の前で、先に召された多くの同労の友と共に、平安のうちに主を賛美していることを信じます。いつの日か、残された私たちも天に招かれ、相まみえ、復活の時を待ちたいと思います。

澁澤さんが愛されたご遺族の皆様の上に、主イエス・キリストの御慰めと御祝福

が豊かでありますようにお祈り申し上げます。

アーメン

主の山に備えあり

—小田嶋義幸さんを偲んで—



酒 勾 節 雄

日本基督教団
北上教会

二〇二三年九月一三日一十一時一〇分小田嶋義幸さんが主のもとに召されました。享年八七歳でした。「主の山に備えあり。」この御言葉通りに生き、生かされてきた生涯だったと改めて思わされます。私が、北上教会員として小田嶋さんと出会い、召されるまで主による信仰の交わりに共に生きるようになってから五三年を教えることになりました。

彼が北上教会で洗礼を受けてから四年後に私は、北上教会で小田嶋さんと出会います。私は近隣の江刺教会で一九六一年一月に洗礼を受け、一九六九

年一〇月に転勤で北上市に住むことになりました。転勤後間もなく教会籍を北上教会に移し、それ以来四四年、北上教員として信仰の交わりを共にしてきたこととなります。

「主の山に備えあり。」創世記に記されているこの御言葉は、彼の信仰の証としてしばしば語られてきました。リュウマチによつて体が硬直してしまい歩行が困難になった小田嶋さんが洗礼を受けた直後から自分の力で生きようとする生き方から神により頼んで生きる新しい生き方に変えられました。

小田嶋さんが洗礼を受けられた当時を思い起こし、それからの自らの歩みを語る次のような証には、小田嶋さんの生涯に神さまが生きて働いてくださっていることが如実に現わされているように思えます。

証の一部を紹介させていただきます。受洗に至る心境を次のように綴っています。

「一九六九年八月二八日空は晴れていました。朝早く柴田牧師がオートバイできて、特別伝道集会に来ていた東京・銀座教会石川四朗牧師が午後横手に行く途中

下車して洗礼を授けてくれると言っているが受洗しませんかと言った。

私は授かる決心をした。一〇年間寝たきりの生活を送り絶望の淵にいたがキリストの愛を信じるのができなかつた。北上教会の兄弟姉妹、牧師先生が病床に訪れ、神の愛について一生懸命お話ししてくれるのだが頑ななところは受け入れることができなかった。

神は愛なり、神が愛ならば苦しみの中にいる人はいないはずだと頑固に神の存在を否定し続けていた。しかし否定し続ける根拠が不鮮明でだんだん疲れていた。訪ねてくる方々の真摯な態度、言葉に心の底で魅かれていた。この人たちの信じる信仰に委ねることにした。列車は速度を落とすゆつくり駅に近づくとが見えた。まもなく先生たちが入ってきた。信徒も数人いた。父と子と聖霊によつて授ける。こう宣言されて、私は神の子となった。奇しくも誕生日と同じ日だった。夏の空は青く澄んでいた。目の前が明るくなつたような気がした。新しい出発だつた。」

このようにして神による小田嶋さんの新しい人生が始まりました。

その後、社会復帰の志を与えられ、一九六六年国立身障センターに入所し、職業訓練を受けることになりました。そこで新しい信仰の仲間と出会い、特にキリスト者詩人である島崎光正さんに出会ったことは、その後の生き方に大きな影響を与えることになりました。さらに近くの牛込キリスト教会での信仰の交わりは洗礼を受けて間もない小田嶋さんの信仰の礎が据えられたように思います。

二年近くの訓練を終えて施設を出る小田嶋さんが島崎光正さんからは「受け身で生きるように」と言つて送り出され、牛込キリスト教会の佐藤陽二牧師からは「主の山に備えあり」の御言葉をもつて送りだされたことをよく話されていました。家に帰る時の心境を小田嶋さんは次のように語ります。

「我が家に戻ってくる時は、生活の自信はありませんでしたが、教会の礼拝には出席できる。何もできなくても教会にだけは行けると、不安の中にも行く場所があることに希望がありました。そして教会に行くことが喜び楽しみでした。」

小田嶋さんは、主日礼拝をほとんど休むことなく守り続け、教会までの一二キ

口の道の送迎は教会員の数人で担当してききましたが、私もその一人で、送迎途上で島崎さんとの出会い、牛込キリスト教会での信仰の交わりを何度となく聞かされてきました。

自宅に戻った小田嶋さんの社会復帰のきっかけは土建会社から経理の仕事で頼まれたことから始まります。そして、近くの駐在所の娘さんの勉強を見るようになったことを契機にして学習塾を開くことになり、以来、主が備えてくださったところに出かけたり、求められる役職に就いたりして活動の場が広がるようになります。リュウマチ友の会岩手支部長に就任を始めとし、一九九六年にはみちのくコスモスの会（東北障がい者キリスト者の交流団体）を設立し会長に就任。更に、北上市にあつては北上市障がい者団体連絡協議会を結成して会長に就任するなど、その後も、次から次へと働き場所が備えられて、あたえられた賜物を生かして、障がい者の生活の向上のために働き続けてこられました。

その働きを支えてこられた宮本由美子さんとの出会いは、母親を亡くして、一人暮らしを始めるためのバリアフリー

の家を建て、そこで暮らし始めた時です。

介護ヘルパーとして小田嶋さんのところに派遣されたことにより、小田嶋さんの活動が広がるにつれ、由美子さんの活動も自宅介護に加え、移動支援に広がり、キ障協の総会を始め、各集會に同伴するようになりました。そして、東日本大震災によつて自宅が半壊してしまい、由美子さんの自宅で過ごすようになります。そして、由美子さんの家で神の御許へと召されました。主の山に備えられての地上の旅を終えたのでした。

小田嶋さんは言います。

「人間の可能性は無限です。障がいがあつても、そのようなことは関係ありません。できないと決めてしまったときは終わりです。常に前向きに前進していくときに、新しい素晴らしい道ができます。」

「主の山に備えあり。」それに向かつて進んでいく小田嶋さんの言葉です。

私が、小田嶋さんのことを偲びながらここまで書いているうちに、次の讚美歌の一節が私の頭に浮かんでいました。

わが行くみち いついかに
なるべきかは つゆ知らねど
主はみこころ なしたまわん

そなえたもう 主のみちを
ふみて行かん、ひとすじに

（讚美歌二一 四六三番）

主が備えてくださった道を一筋に歩み通した小田嶋さんはさらにこうも言います。

「特にキリストの愛に心から感謝しています。キリストは先立つて新しい道を備えてくださいました。わたしは、ただ、その道を歩いただけでした。その道は病を得て、重度の障がい者にならなければ得ることの出来なかつた最高の恵みの道でした。今は、病を得て、重度の障がい者となつて本当に良かったと感謝しています。」

晩年の小田嶋さんは、重度の障がいを抱えた上に、高齢に伴なつて体の機能が衰え、膀胱の手術を受けるなどで、寝たきりの生活を余儀なくされてしまいました。しかし、その中にあつても自分の今できることに最後まで取り組んでいました。寝ながらパソコンの操作ができるよ

う訪問看護師さんの支援を受けて新聞に投稿したり、時々的心境を俳句で表現したりしていました。

寝たきりになった小田嶋さんを北上教会の加藤直樹牧師と訪問を重ねてきましたが、訪問するたびに、いまある神の恵みに感謝する言葉をいつも交わす時となりました。神さまにすべてを捧げつくした小田嶋さんの生涯であつたと思えます。

そして、今は、かくまで小田嶋さんを生かし、御名のために用いてくださった主の恵みに感謝するだけです。

全国キリスト教障害者団体協議会
二〇二二年度 総会報告

日時 二〇二三年七月四日(火)一〇時
場所 道後友輪荘

最初に澁澤久前会長・顧問(二〇二二年二月六日召天)を偲び黙祷。

滝川英子キ障協会計(アーモンドの会)から澁澤さんの葬儀その他に関しての報告がされました。

一、議長選出 廣田守男キ障協会長
二、点呼 埼玉アーモンドの会 滝川英子

信州なすなの会 上村聡美、吉野陽一
兵庫共助会 廣田守男、廣田君代

東中国キ障共 難波幸矢

広障伝 剛家英子、山根慎三

四障伝 明石公子、野口幸生

七団体一四名中十名参加で総会成立。

欠席 みちのくコスモスの会、白井進

キ障協副会長(三日のみ出席)

三、書記選出 難波幸矢

四、聖書イザヤ書四〇章二八節〜三一節

五、議事

(一)二〇二二年度事業報告承認に関する件
難波幸矢書記から別紙報告の通り、意義なく承認される。

(二)二〇二二年度会計決算報告及び会計監査報告承認に関する件

滝川英子会計役員から別紙報告の通り、意義なく承認される。

(三)役員改選に関する件
廣田守男会長、難波幸矢副会長留任、

白井進副会長留任

滝川英子会計から会計の辞任を申し

出られる。その後任として同じアーモンドの会の石川幸男さん(キ障協会計監査)に引き継いでいただく。

滝川英子さんが会計監査に交代する。ただし郵便局窓口の変更手続き等あり、暫くは一緒にされる。

以上の通り承認される。

(四)二〇二二年度事業計画(案)承認に関する件

①次期総会開催の件 順序としては、みちのくコスモスの会、或いはアーモンドの会であるが、二団体とも都合が悪いため。そこで信州なすなの会に担当して戴けないかとお願いする。「九月まで待つてください。帰って話し合ってみます」との説明を受け、信州なすなの会の結果に委ねることを承認する。

②会報「キ障協四五号」発行の件。(毎年三月に発行している。)

編集に携わって下さる人を募集している。

櫻井義也前副会長は四四号までと仰っておられる。四五号の内容は澁澤久顧問が召され、葬儀をされた本庄教会で櫻井義也前副会長が読まれた弔

辞及び四年ぶりに対面で開かれた総会の報告や講演を掲載する予定。

四障伝の野口幸生書記が「キ障協」の編集を助けてくださるとお申し出下さる。

③キ障協の略史を発行する件。

過去の執筆者の方々の原稿も掘り起こしたい。

以上の件を承認する。

(五) 二〇二二年度会計予算(案)承認に関する件

滝川英子会計より別紙の通り予算案の提案があり、提案通り承認される。

(六) その他

○各団体で現在のキ障協役員名簿を確認し、修正があれば届ける。

○記念誌の件だが、これまで候補に挙がっている方々のほかに、キ障協の歴史の中で講演を頂いた方々など沢山ある。例えば広障伝の井原牧生先生、兵庫共励会の兼清章先生など会長をして下さった方々もおられる。よく考えていきたい。

○議事録承認に関する件 役員会に付託することを承認される。

六、閉会祈祷 野口幸生先生

七、キ障協加盟の各団体報告

この三年間、コロナの禍が日本国内に及び、キ障協のみならず各所属団体においてもそれぞれ障害を持った方々が試練と困難の中で自粛を強いられてきました。しかし、四障伝のご尽力により昨日より総会と修養会が開けて、どんな中にあつても神の愛と支え、守りの中にあることを改めて感謝します。これより各団体の報告をして頂きます。

みちのくコスモスの会

(不参加・廣田会長が報告) 代表の小田嶋義幸さんの体調がすぐれず、耳も遠くなられたとのこと。酒匂節雄さん、加藤直樹先生との情報交換によると、機関紙「コスモス」の合本を作りたいとの事。小田嶋義幸会長のパソコンに全部収まっているので今期はこれに集中し、次の歩みへと進みたいと願っている。

信州なすなの会(上村聡美会長)

この六月に初めて集まり、世代交代で会長が北野学さんから上村聡美に、事務長が谷口透さんから松下篤さんへ。コロナ禍で集まれなかったが十一月に再開予

定です。これまでの報告、冊子の合本を持ってきました。来年の全国キ障協総会の会場担当について、引き受けられるかどうかは九月の話し合いによって決めます。それまで待つて下さい。

アーモンドの会(滝川英子キ障協会計)

アーモンドの会は、障害者をサポートする形の委員会ではなく、障害者を持つている方を大切にするという視点からの発足でした。この頃はリモートで遠くからの先生を招くこともできるのですが、ここで原点に返ろうと。教会でどれだけ障害者が生き生きとしているかを考え、高名な先生を招くより懇談会にしよう。本当に痛みを持つている者が互いにリモートの成果として「今日は〇〇さんと会えるよね」と気付き合つていく。それが原点だと思わせられました。自分たちの証を懇談会の「証」の分かち合いにしようと考えている所です。私の教会は貧しい教会ですが人材は豊富。東京だが地方からも来てくれる。アーモンドの会の常連さんもあります。性同一性障害二〇年の人もいます。やっと女性に戸籍を変えることが出来ました。性的少数者がどんなに苦

しみを重ねてきたか、礼拝の時、彼女の隣に座らない。誰が彼女の隣に座るかが問題。アーモンドの会は障がい者の団体ではない。障害を知って大事にする会です。懇談会は年に一回。委員会は年五、六回開いています。一回は委員の研修です。すばらしい人材に恵まれています。

NPO法人兵庫共励会(廣田守男理事長)

NPO法人になって九回目の総会を五月に開きました。兵庫身障者共励会から始まり兵庫キリスト教障害者共励会に名称変更し、機関誌「きぼう」からの記事も含め、創立五〇周年記念誌を出版する予定です。例年一泊修養会を行っていたのですがこの三年出来ていません。今年は一日バス旅行で淡路島か神戸の動物王国かを予定しています。ランチョンは年五回、第二金曜日に開いています。会員訪問も計画していましたが、寄せ書きなどになっています。会員の古澤輝勝さんですが、未信者の息子さんが亡くなられ、それを記念してシオンビルを建てられています。古澤さんがご召天になられたことにより、共励会に寄贈して下さったシオンビルの活用が今後の課題で

す。シエアハウスなどを考えている所です。

東中国キ障共(東中国キリスト者障害者を共に学び共に担う会)(難波幸矢会長)

コロナ禍で、修養会も講演会も、何も行わないまま二年近くが過ぎ、ただ機関誌「シャローム」だけは出しましたよと頑張ってきました。一見キ障共に関係

無さそうな福島原発事故以来の様子を載せたり、難波が関わっているホームレス支援の夜回りの事を載せたり、会員の在日の友人、姜さんが送って下さった絵本「恩恵さんの抱擁」などを掲載したりしてきました。そして短い時間でも一度顔と顔を合わせて総会を開きたいという思いがつのり、二〇二二年一月二三日(水)、岡山博愛会教会において第三四回総会を開きました。同教会の渡辺真一牧師に説教をして頂き、短くても近況を一言ずつと、急ぎつつも近況報告をして久しぶりの再会を喜び合いました。

二か月に一回開く私たちキ障共役員会の持ち方としてお伝えしたいことは、役員会の始めに二〇分ほど、読書会を持ち(一回約二〇頁輪読)、感想を述べあ

う事です。現在は向谷地生良さんの「精神障害と教会」でした。ちょうど先月の役員会が最終回になりました。次回からは「大人になった発達障害の仲間たち」になります。「精神障害と教会」は皆さんにお勧めします。とても大切な、重要な、私たちが聞く必要のある本です。皆さんにお勧めします。

広障伝(広島障害者キリスト伝道会)(剛家英子会長)

今、いろいろな報告を聞いて、忸怩たる思いです。私って横着者だったと反省しています。何もしてきてないです。ヘルパーさんにお尻を叩かれていた所で。今年五月一〇日、ええかげんにヤッコラシヨと動こうかと。「障害者と教会」シンポジウムをずっとやってきたが、それも続けられるかどうか分かりませんが、話し合ってきています。皆が動けるようにもう一回掘り起こしたいと思っています。先生方お願い！今年はやりたいと思っています。三年間何もしてないし教会にも行っていない。山根慎三先生にも「いい加減にせえ」と言われています。当事者が動けないし隠れている

ので、掘り起こし、先生方の協力を得て
動きたいです。

四障伝(四国障害者キリスト伝道会)(野
口幸生書記)

主な活動は年一回修養会の開催です。
コロナ前は隔年で高知地区会も行っており、今回の成田信義先生の主題講演は、
地区会でお聞きし、ぜひこの修養会でも
となりました。設立当初から教区伝道部
と教会婦人会連合の協力のもと教区の交
わりの中で活動し、参加補助の助けもい
ただいています。送迎も皆さんの協力で
やってきましたが、障がいを抱える方の
出席が、丸木道弘前会長も含め困難とな
り、送迎奉仕も難しくなりましたが、先
達の灯した火を守ろうとしている所で
す。昨年は竹村真知子先生、今年一〇月
は難波幸矢さんを講師に三時間の短縮プ
ログラムで修養会を開催予定です。

キ障協(廣田守男キ障協会長)

キ障協も、役員会や各団体との代表者
懇談会などリモートで行うようになりま
した。

いわゆるズーム総会で昨年、一昨年と

行ってきました。そういう経過で各団体
の歩みを交換できるようになりました。
更に用いられ広がっていく事を願って
おります。

各団体代表者会において、アーモンド
の会の奥田幸平会長さんがホストになっ
て下さったことを感謝しております。
違った意味で交わりが広がったと思いま
す。あらゆる方法で主に用いられ、更に
主を証することが出来ることを確認して
います。更に主に期待して歩んでいきま
しょう。

二〇二四年度キ障協総会・修養会 のご案内

キ障協の各団体に所属しておられま
す皆様、お元気にお過ごしでしょうか？

二〇二〇年初頭より続いたコロナ禍
も昨年五月に五類感染症に移行し、七月
には対面で四国の松山で修養会・総会を
開催でき嬉しく思います。今年には信州な
ずなの会のお世話で松本市において開催

できる運びとなりました。すでに左記の
ような計画で準備が進められておりま
す。各加盟団体における活動も対面で集
会が持てるようになったとの報告を承
り、幸いに思います。各加盟団体会員に
おかれましては是非ご参加くださるよう
ご案内申し上げます。

日時 七月一日(月)～二日(火)

場所 日本キリスト教団筑摩野伝道所(松

本市村井町北二丁目一四二〇)

宿泊 ホテルルートイン塩尻北インター
(朝食付き・バリアフリー完備)

塩尻市大字広丘高出一五四八一

Tel〇二六三一五七八一

参加費用 全日参加 一万二千元

(宿泊費&参加費&夕食代含)

①部分参加(夕食あり) 二千円

(参加費&夕食代含)

②部分参加(夕食なし) 千円

締め切り：五月末日(期日厳守)

※お申込みいただいた方に、正式プロゲ

ラム及び参加方法詳細を送付します。

送付希望先(メールも可)をお知らせ

ください。

プログラム

一日目

- 一・三〇 受付
- 二・三〇 インフォメーション
- 二・四〇 開会礼拝
- 三・〇〇 四人の証人による

パネルディスカッション
(二時間程度、&交流会)

二日目

- 九・〇〇 キ障協総会
- 一・〇〇 閉会礼拝(午前中で終了)

実施団体 信州なすなの会

詳細にわたるご案内は、年度明けの四月に入って信州なすなの会より、加盟各団体に送られますので、加盟団体を通じてお申し込みください。各団体の皆様と再会の機会です。是非とも多数、ご参加ください。

尚、加盟各団体は二〇二三年度の団体活動報告をまとめて文書にして、総会でご報告ください。よろしくお願いいたします。

パネルディスカッション・パネラー紹介

阿佐光也牧師

日本基督教団新泉(しんせん)教会隠退牧師、日本盲人伝道協議会副議長。

一九八八年三月 日本聖書神学校を卒業

一九八八年四月より日本基督教団新泉教会牧師となる。

横内純 牧師

日本基督教団高田教会主任担任教師、日本基督教団新井教会主任担任教師代務者、信州なすなの会会員(前副会長)

二〇二三年五月三〇日(火) 関東教区総会にて准允を授かりました横内純です。現在は日本基督教団高田教会主任担任教師、日本基督教団新井教会主任担任教師代務者として上越・妙高の地に神によつて遣わされております。二〇〇七年に長野県の松本教会で受洗、二〇一九年に神から召命が与えられ日本聖書神学校の門をたたきました。日中仕事、夜間勉学という本当に両立できるか不明な中で、無事の卒業が神によつて叶い、このように教会に遣わされることとなったとは、神

は私の想像を遙かに超えておられ、同時に多くの恵みを与えて下さる方であるということをお言葉の取り次ぎをする中で聖書を通して語り、実践してまいりたいと心から願うものであります。神によつて教会に遣わされてから日は浅いですが、地区や教区との繋がりをもちつつ多くの方々への祈りに支えられて教会が立っていることも神に感謝し、教会と共に歩んで参りたいと思います。私自身に身体障害があつたからこそ神によつて出会うことが叶った人々があり、それは紙面を讀んで下さっている方々に他ならぬことです。神が皆様と繋げて下さったことに感謝しつつ信徒一人ひとりもみ言葉を聴き、祈りを合わせていける教師を志していくことができたらと思ふのです。(日本基督教団関東教区通信より抜粋。ご本人の了解済)

北原学人氏

信州なすなの会前会長

日本同盟基督教団伊奈聖書教会会員

私がまだ日本キリスト教団の教会に集っていた頃、車いすの詩人である

島崎光正先生が講師として奉仕してくださいました。その講演を通して「神様は私たち障がい者をも創造され、それをよしとされた。だから私たちは神様の失敗作などではなく、この世界を導くべき重要な使命を与えられている」という新しい視点が与えられて、目から鱗が落ちた感じがしました。私は、この重要な使命とは何かについてもっと知りたくて、伊那からこの会に導かれてきました。

私が初めてこの会に参加した日は、奇しくも思いやりの会最後の総会の日でした。この日、思いやりの会は信州なすなの会として再出発することが決まりました。私は二つの点で、松本地区思いやりの会が信州なすなの会へと進化していく必要があったのだと、総会での話し合いを聞いて感じました。一つめは、健丈者が障がい者を一方的に思いやるという発想から、健丈者も障がい者も共に補い合つて神様から委ねられた大切な使命を果たす会へと変わっていかなければならぬ。二つめに、この普遍的な働きは、松本地区だけでなく全国的な働

きへと広がっていく必要がある。実際今日まで、信州なすなの会は北信から南信まで個々の教会を越えて、より多くの人々に影響を与えながら活動してきたと思います。

私もそんな会に参加することで、時に立ち止まって自分に障がいを与えられている意味と使命について思いをめぐらすことができました。またなすなの会の集いの場で、自分の障がいやその時々抱え込んでしまった信仰生活などの難題について、悲しみや苦しみが止揚され救われていく証しを聞いていただきました。それが自らの信仰の成長の糧ともなつてきました。

私は自分の障がいと比較的落ちついていたこともあり、切迫する自分の魂の救いの方に、より強い関心を傾けて求め続ける歩みをしてきました。そのような歩みを通して、「たとえ私たちが意識しなくても神様から与えられた使命は、神様ご自身の手によって成し遂げられていくのではないか。だから神様を信じてお委ねして、自らの歩むべき道を精一杯歩んでいけばい

いのだ」と思うようになっていきます。これからも信州なすなの会の中で、皆さんと信仰の分かち合いを続けることができたらと願っています。（障がい者の使命とは）

上村聡美

日本基督教団松本教会会員

信州なすなの会会長、コミュニティカフェ・シャロームサロン運営、のぞみカウンセリング代表、生きづらさを抱える大人の発達障害びあサークルがあるラボ運営スタッフ

幼児期より親からの虐待を受けるなど機能不全家族で育ち、一九七九年に茨城県水戸市の福音派の教会で受洗。四〇代半ばでうつ病発症、五〇代目前に発達障害の診断を受けるのと同時に精神障害福祉手帳二級を取得、当事者会活動を開始。数年後アールプス実践カウンセリング協会認定心理カウンセラー三級を取得。現在は塩尻市広丘でコミュニティカフェ・シャロームサロンで月に一度当事者会を開催中。参照URL: <https://nozomi.gr.worldpress.com>